

経済・金融 フラッシュ

消費者物価(全国 09年8月)

～コア CPI は 4 ヶ月連続で過去最大の下落率を更新

経済調査部門 主任研究員 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. コア CPI は 4 ヶ月連続で過去最大の下落率を更新

総務省が 9 月 29 日に公表した消費者物価指数によると、8 月の消費者物価(全国、生鮮食品を除く総合、以下コア CPI) は前年比▲2.4%となり、下落幅は前月から 0.2 ポイント拡大した。事前の市場予想(ロイター集計: ▲2.4%、当社予想も▲2.4%)通りの結果であった。下落率は 4 ヶ月連続で過去最大を更新した。

食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合は前年比▲0.9%(7月:同▲0.9%)、総合は前年比▲2.2%(7月:同▲2.2%)となった。

コア CPI の内訳を見ると、電気代(7月:前年比▲4.4%→8月:同▲5.2%)、ガス代(7月:前年比▲2.8%→8月:同▲4.1%)、ガソリン(7月:前年比▲30.5%→8月:同▲31.4%)、灯油(7月:前年比▲43.4%→8月:同▲44.9%)のいずれもが前月より下落幅が拡大したため、エネルギー全体では前年比▲18.6%(7月:同▲17.5%)と下落幅が拡大した。食料品(生鮮食品を除く)は前年比▲0.5%(7月:同 0.1%)となり、3年ぶりに下落に転じた。

コア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が▲1.78%(7月は▲1.67%)、食料品(生鮮食品を除く)が▲0.11%(7月は 0.02%)、その他が▲0.54%(7月は▲0.60%)であった。

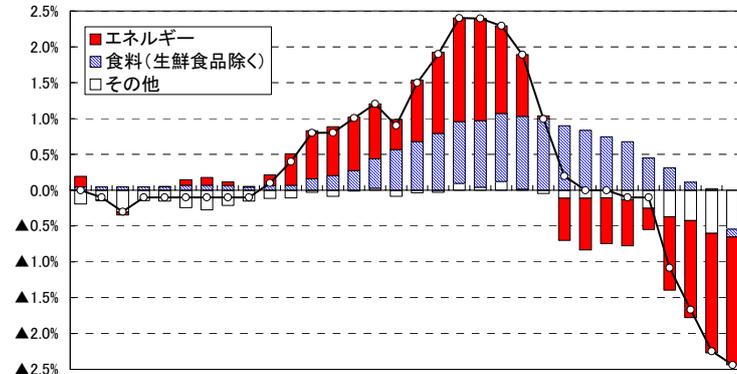
消費者物価指数の推移

(前年同月比、%)

	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合	総 合	生鮮食品を除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合
08年 4月	0.8	0.9	▲0.1	0.6	0.7	0.0
5月	1.3	1.5	▲0.1	0.9	0.9	0.1
6月	2.0	1.9	0.1	1.5	1.3	0.3
7月	2.3	2.4	0.2	1.6	1.6	0.3
8月	2.1	2.4	0.0	1.3	1.5	0.2
9月	2.1	2.3	0.2	1.4	1.7	0.5
10月	1.7	1.9	0.2	1.2	1.5	0.4
11月	1.0	1.0	0.0	1.1	1.1	0.2
12月	0.4	0.2	0.0	0.8	0.8	0.2
09年 1月	0.0	0.0	▲0.2	0.5	0.5	▲0.3
2月	▲0.1	0.0	▲0.1	0.5	0.6	▲0.1
3月	▲0.3	▲0.1	▲0.3	0.2	0.4	▲0.4
4月	▲0.1	▲0.1	▲0.4	▲0.1	0.0	▲0.6
5月	▲1.1	▲1.1	▲0.5	▲0.8	▲0.7	▲0.9
6月	▲1.8	▲1.7	▲0.7	▲1.5	▲1.3	▲1.0
7月	▲2.2	▲2.2	▲0.9	▲1.8	▲1.7	▲1.1
8月	▲2.2	▲2.4	▲0.9	▲1.7	▲1.9	▲1.1
9月	—	—	—	▲2.0	▲2.1	▲1.4

(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

消費者物価指数(生鮮食品除く、全国)の要因分解

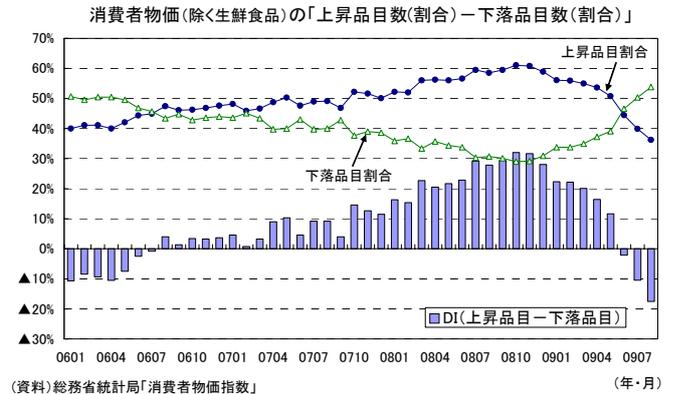


(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

(年・月)

2. 物価下落品目数がさらに増加

消費者物価指数の調査対象 524 品目（生鮮食品を除く）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、8月の上昇品目数は190品目（7月は209品目）、上昇品目数の割合は36.3%となり、前月の39.9%から低下した。下落品目数は282品目（7月は264品目）で、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は▲17.6%となり、前月の▲10.5%からマイナス幅が拡大した。物価下落の動きがより広範化していることを示したものと見えよう。



3. コア CPI は年末にかけて下落幅縮小の公算

9月の東京都区部のコア CPI は前年比▲2.1%となり、下落幅は前月から0.2ポイント拡大した。事前の市場予想（ロイター集計：▲2.0%、当社予想も▲2.0%）を若干下回る結果であった。

電気代（8月：前年比▲9.5%→9月：同▲10.5%）、ガス代（8月：前年比▲6.0%→9月：同▲8.2%）の下落幅が拡大する一方、ガソリン（8月：前年比▲30.4%→9月：同▲24.5%）、灯油（8月：前年比▲41.1%→9月：同▲40.8%）の下落幅が縮小したため、エネルギー全体では前年比▲13.4%（8月：同▲13.6%）と下落幅が若干縮小した。食料品（生鮮食品を除く）は前年比▲1.3%となり、前月の同▲0.9%から下落幅が拡大した。

それ以外では、被服及び履物（8月：前年比▲1.3%→9月：同▲2.6%）の下落幅が大きく拡大した。売上不振に対応して大幅な値下げが行われていることを反映したものと見えよう。

東京都区部のコア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が▲0.81%（8月は▲0.84%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.27%（8月は▲0.19%）、その他が▲0.98%（8月は▲0.84%）であった。

9月の東京都区部の結果から考えると、9月の全国コア CPI の下落率は2.5%程度となり、10月までは2%台のマイナスが続くことが予想される。ただし、原油価格の上昇に伴いガソリン店頭価格（石油情報センター調べ）は1月中旬の106円/リットル（レギュラー、全国平均）を底に緩やかに上昇しており、直近（9/24）では129.1円/リットルとなっている。ガソリン価格の前年比は年内には前年比でプラスに転じる公算が大きい。また、これまで料金引き下げが続いていた電気代、ガス代も今後は値上げに転じることが見込まれる。エネルギー価格低下の影響一巡に伴い、年末にかけてコア CPI のマイナス幅は1%台後半まで縮小する可能性が高い。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。